

平成 22 年度 「包括脳ネットワーク」夏のワークショップ

日時： 平成 22 年 7 月 27 日（火）～ 30 日（金）

7 月 27 日（火）	13:00-18:40	脳科学研究戦略推進プログラム分科会・新学術領域研究会議
	13:00-21:00	ポスターセッション(前半準備・掲示)
7 月 28 日（水）	9:00-12:15	脳科学研究戦略推進プログラム分科会・新学術領域研究会議
	13:00-13:30	包括脳ネットワーク オープニングセッション
	13:30-15:30	脳科学の将来と新分野創成センター
	15:45-18:15	「包括脳ネットワーク」総括支援およびリソース・技術支援活動に関する説明会
	13:30-17:30	病態脳科学関連ワークショップ『脳疾患研究の新しい潮流』
	13:30-18:20	さきがけ「脳情報の解読と制御」「脳神経回路の形成・動作と制御」発表会
	9:00-19:00	ポスターセッション(前半掲示・撤去、後半準備・掲示)
	19:00-21:00	合同懇親会
7 月 29 日（木）	9:00-10:00	プレナリーレクチャー
		“Information processing and integration of the basal ganglia”
	10:10-15:40	「知覚と運動」(脳と心のメカニズム主催ワークショップ)
	10:10-15:30	「シナプスとスパインを作る遺伝子」
	16:00-19:00	脳神経科学のキャリアパスを考える会
	9:00 -21:00	ポスターセッション (後半)
7 月 30 日（金）	08:55-12:10	若手参加分野別将来構想討議会 (分子、回路)
	09:00-12:00	若手参加分野別将来構想討議会 (システム)
	09:00-12:00	若手参加分野別将来構想討議会 (病態)

主催： 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク(文部科学省 科学研究費補助金)

共催： 文部科学省(脳科学研究戦略推進プログラム「分科会」運営委員会・新学術領域研究)

科学技術振興機構(CREST・さきがけ) 脳と心のメカニズム

日本神経科学学会・日本神経化学会・日本神経回路学会

自然科学研究機構 新分野創成センター・玉川大学グローバル COE

問い合わせ先

事務局： 高田昌彦/京大・霊長研

takada@pri.kyoto-u.ac.jp

岡部繁男/東大・医

okabe@m.u-tokyo.ac.jp

平成 22 年度 「包括脳ネットワーク」夏のワークショップ会場案内

7月27日(火) 午後

14:00-17:00	ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発 (脳プロ課題 AB)	瑞雪
13:00-18:00	独創性の高いモデル動物の開発 (脳プロ課題 C)	蓬莱
13:00-18:00	社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発 (脳プロ課題 D)	玉葉
13:00-18:40	学際的研究による顔認知メカニズムの解明 (新学術領域)	黎明
13:00-18:00	ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解のための神経機構の解明 (新学術領域)	清流
13:00-21:00	ポスターセッション(前半準備・掲示)	フロア 瑞雪

7月28日(水) 午前

9:30-12:00	ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発 (脳プロ課題 AB)	瑞雪
9:00-11:50	独創性の高いモデル動物の開発 (脳プロ課題 C)	蓬莱
9:00-12:00	社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発 (脳プロ課題 D)	玉葉
9:00-12:15	学際的研究による顔認知メカニズムの解明 (新学術領域)	黎明
9:00-12:00	ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解のための神経機構の解明 (新学術領域)	清流
9:00-15:00	ポスターセッション(前半:瑞雪は12:00まで)	フロア 瑞雪

7月28日(水) 午後

13:00-13:30	包括脳オープニングセッション	瑞雪
13:30-15:30	脳科学の将来と新分野創成センター	瑞雪
15:45-18:15	「包括脳ネットワーク」総括支援およびリソース・技術支援活動に関する説明会	瑞雪
13:30-17:30	病態脳科学関連ワークショップ『脳疾患研究の新しい潮流』	蓬莱
13:30-18:20	さきがけ「脳情報の解読と制御」「脳神経回路の形成・動作と制御」発表会	清流
19:00-21:00	合同懇親会	
15:00-19:00	ポスターセッション(後半準備・掲示)	玉葉 黎明 フロア

7月29日(木)

9:00-10:00	プレナリーレクチャー	瑞雪
10:10-15:40	「知覚と運動」(脳と心のメカニズム主催ワークショップ)	瑞雪
10:10-15:30	「シナプスとスパインを作る遺伝子」	蓬莱
16:00-19:00	脳神経科学のキャリアパスを考える会	蓬莱
9:00-21:00	ポスターセッション(後半掲示)	玉葉 黎明 フロア

7月30日(金)

8:55-12:10	若手参加分野別将来構想討議会(分子、回路)	黎明
9:00-12:00	若手参加分野別将来構想討議会(システム)	蓬莱
9:00-12:00	若手参加分野別将来構想討議会(病態)	清流

会場見取り図

会場：ホテルさっぽろ芸文館（旧北海道厚生年金会館）

〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目 TEL 011-231-9551

<http://www.sapporo-geibun.jp/>



[4階]

[3階]

	瑞雪(大)	蓬莱(中)	玉葉(小)	黎明(中)	清流(中)
7月27日午後 ポスター前半 (フロア) 13:00-21:00	ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発 脳プロ課題 AB 14:00-17:00	独創性の高いモデル動物の開発 脳プロ課題 C 13:00-18:00	社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発 脳プロ課題 D 13:00-18:00	学際的研究による顔認知メカニズムの解明 13:00-18:40	ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解のための神経機構の解明 13:00-18:00
7月27日夜 リソース委員会	合同ポスターセッション 18:00-21:00				
7月28日午前 ポスター前半 (フロア) 9:00-12:00	BMIの開発 脳プロ課題 AB 9:30-12:00	モデル動物の開発 脳プロ課題 C 9:00-11:50	社会的行動を支える脳基盤 脳プロ課題 D 9:00-12:00	顔認知メカニズムの解明 9:00-12:15	コミュニケーション理解のための神経機構の解明 9:00-12:00
総括班会議 7月28日午後 Neuroinformatics (28,29日にフロアでデモ)	(瑞雪の間) 包括脳オープニングセッション 13:00-13:30				
	脳科学の将来と新分野創成センター 総括班リソース説明会 13:30-18:15	病態脳科学関連ワークショップ『脳疾患研究の新しい潮流』 13:30-17:30	ポスター会場準備と掲示開始 15時～ 15:00-19:00	ポスター会場準備と掲示開始 15時～ 15:00-19:00	「脳情報の解読と制御」「脳神経回路の形成・動作と制御」(JST) オープン形式 13:30-18:20
7月28日夜 (懇親会)	合同懇親会 (包括脳、脳と心、新学術領域、脳プロ、JST GCOE) 19:00-21:00				
7月29日	(瑞雪の間) プレナリーレクチャー (中西重忠) 9:00-10:00				
プレナリー後 Neuroinformatics ポスター後半 (フロア) 9:00-17:00	「知覚と運動」(脳と心) 10:10-15:40	「シナプスとスパインを作る遺伝子」研究討議 (平井) 10:10-15:30	ポスター 脳と心 分子、回路 システム、 病態	ポスター 脳と心 分子、回路 システム、 病態	X
7月29日夜 ポスター後半 (フロア) 19:00-21:00		脳神経科学のキャリアパスを考える会 16:00-19:00	9:00-21:00	9:00-21:00	
7月30日午前		若手参加分野別将来構想討議会 (システム) 9:00-12:00		若手参加分野別将来構想討議会 (回路分子) 8:55-12:10	若手参加分野別将来構想討議会 (病態) 9:00-12:00

【参加および懇親会の事前登録】

夏のワークショップ参加は事前に包括脳 HP にて登録を済ませた方、または脳プロのメンバーで脳プロを通じて参加登録された方に限定しております。包括脳参加登録の仕方がわからない方は、包括脳の HP をご確認ください。大学院生等の方は所属機関の包括脳メンバーに researchmap から招待状、次いで包括脳ネットワークコミュニティから招待状をもらい参加登録する手順をおすすめします。また新学術領域、脳と心、さきがけ等の参加者も包括脳の前登録を行い参加するようにお願い申し上げます。

また懇親会も事前登録制になっております。参加希望者は、事前に HP で懇親会参加の登録をお済ませください。懇親会費は、一般 8,000 円・学生 6,000 円になっております。

受付にてお支払いください。

《懇親会》 日時：7月28日 午後19時～午後21時まで
会場：ロイトン札幌（2階 ハイネスホール）
住所：〒060-0001 札幌市中央区北1条西11丁目
TEL：011-271-2711（代表）

【受付およびネームカード】

夏のワークショップの実施において、包括脳参加登録者は包括脳研究集会本部が総合案内と受付を行います。脳プロメンバーの参加登録者の方々は脳プロの受付でお願い申し上げます。脳と心のメンバーに関しては総合受付と受付それぞれの受付も行います。各会場の研究集会はそれぞれの各事務担当による業務取り扱いになります。

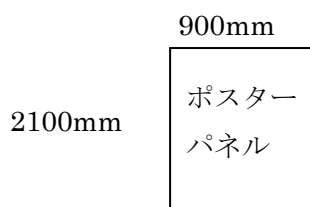
受付時にネームカードホルダーをお渡しします。ネームホルダーが受付済の参加資格を示すので会期中は必ずお付け下さい。

【講演発表について】

口演発表される先生方は、それぞれのイベントの担当責任者と事前に連絡を取り、その形式に従ってご準備をお願い申し上げます。基本的な機材は準備しておりますが、詳しくは事務局または会場の責任者にご相談ください。

【ポスターセッション】

ポスターパネルの大きさは W900×H2100 です。ポスターはこの範囲に入るようにご準備をお願い申し上げます。ポスターには 領域「分子脳」「回路脳」「システム脳」「病態脳」「脳と心」 さらに「脳プロ」「新学術津田」「新学術柿木」などでラベルされておりますのでご確認ください。前半ポスターセッションと後半ポスターセッションがあり、時間で切り替えますので、前半のポスターの方は撤去時間にご注意ください。



《会場使用案内》

- 会館内の案内、周辺案内マップをご用意しております。
- クロークは、さっぽろ芸文館3階にあるクロークをご利用下さい。

利用予約時間

7月27日（火） 11:00-21:30

7月28日（水） 8:00-19:00

7月29日（木） 8:00-21:30

7月30日（金） 8:00-14:00

さっぽろ芸文館の担当者の方が対応して下さいますが、基本的に常駐ではないので呼び出しベルでの対応になります。

- インターネットは3F 鈴蘭の間近くのロビーにブースを設けております。
無線LANもごございますのでブースの近辺でしたらインターネットの利用が可能です。
- コピーの出来る場所は、ホテルフロントになります。（A4サイズ1枚20円）
- 休憩時は、1階と4階の自動販売機をご利用下さい。
また、昼食会場は設けておりませんので、レストランまたは空いている会場をご使用下さい。

《会議室利用案内》

会議室などのご利用は、すべて予約制となっております。ご自由に利用できる特定の会議室はありませんので、会議室利用希望のグループの方は、事前に事務局と連絡を取るようになさってください。なお会議での弁当の手配等必要な場合は、各委員会でご連絡をお願い申し上げます。

7月27日(火)午後

ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発

会場：瑞雪 14:00-17:00

独創性の高いモデル動物の開発

会場：蓬萊 13:00-18:00

社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発

会場：玉葉 13:00-18:00

学際的研究による顔認知メカニズムの解明

会場：黎明 13:00-18:40

ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解の

ための神経機構の解明

会場：清流 13:00-18:00

ポスターセッション(前半)

会場：フロア 瑞雪 13:00-21:00

ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発

(脳プロ課題 AB)

主催者と連絡先:

川人光男 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所長

14:00～17:00 セッション1 「ECoG 完全埋め込みシステムの開発」

14:00-14:25 ECoG BMI の現状／平田雅之 (大阪大学)

14:25-14:50 国内外の埋込装置紹介／鈴木隆文 (東京大学)

14:50-15:15 脳プロ課題 A における ECoG 完全埋込システム開発の概要／松下光次郎 (大阪大学)

15:15-15:40 24 時間/365 日/10 年使える BMI 技術を目指して／藤井直敬 (理化学研究所)

マルチチャンネル脳信号計測用集積化チップの開発

・ 15:40-15:55 ECoG 計測システム向けアナログフロントエンドチップの開発／
吉田毅 (広島大学)

・ 15:55-16:10 多チャンネル神経細胞活動電位計測および刺激印加用 LSI チップの設計／
中野誠彦 (慶応大学)

16:10-16:35 動物実験利用に向けて脳科学研究ユーザーサイドからの要望／伊佐正 (生理学研究所)

16:35-17:00 総合ディスカッション

独創性の高いモデル動物の開発 (脳プロ課題 C)

主催者と連絡先：

伊佐 正 生理学研究所 発達生理学研究室 認知行動発達機構研究部門

発表 25 分，質疑応答 5 分

13:00-13:05	伊佐正(生理学研究所)	“拠点長挨拶”
13:05-13:35	伊佐正(生理学研究所)	“マカクザル、マーモセットでの遺伝子発現改変研究の現況”
13:35-14:05	笠原洋紀(渡邊大, 京都大学)	“霊長類神経ネットワーク解明に向けたウイルスベクターの開発 (仮)”
14:05-14:10	休憩	
14:10-14:40	佐々木えりか(実験動物中央研究所)	“脳神経科学に有用な遺伝子改変霊長類モデルの作製”
14:40-15:10	外丸祐介(広島大学)	“マーモセットの生殖工学・クローン技術”
15:10-15:40	中村克樹(霊長類研究所)	“コモン・マーモセットの行動評価”
15:40-15:50	休憩	
15:50-16:20	岡野栄之(慶応大学)	“遺伝子改変コモンマーモセットによるヒト神経疾患モデルの開発”
16:20-16:50	肥後範行(産業技術総合研究所)	“霊長類運動皮質における特異的遺伝子発現”
16:50-17:00	休憩	
17:00-17:30	大石高生(霊長類研究所)	“霊長類脳の老化にともなう脳内分子発現変化と前頭前野神経連絡の発達”
17:30-18:00	高田昌彦(霊長類研究所)	“サル脳への外来遺伝子導入と高次脳機能研究への応用”

社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発

(脳プロ課題 D)

主催者と連絡先： 狩野方伸

東京大学大学院医学系研究科神経生理学分野

【1. 社会性・社会的行動の機能発達】

<座長> 高橋琢哉 (横浜市立大学)

13:00~13:05 狩野方伸 (東京大学) 「はじめに：課題Dの活動報告」

13:05~13:20 狩野方伸 (東京大学) 「社会的行動の基盤としてのシナプス機能発達」

13:20~13:45 岡部繁男 (東京大学) 「In vivo imagingを利用した生後脳発達とその障害の解析」

13:45~14:10 廣瀬謙造 (東京大学) 「シナプス機能の可視化解析」

14:10~14:20 休憩

14:20~14:45 高橋琢哉 (横浜市立大学)

「発育期社会的隔離ストレスに関連した機能分子スクリーニング系の開発」

14:45~15:10 東原和成 (東京大学) 「社会性行動に関連する匂いやフェロモン物質の同定」

15:10~15:35 定藤規弘 (生理学研究所) 「2個体同時脳血流計測による共同注意の神経基盤解明」

15:35~15:50 川道拓東 生理学研究所 (脳プロ特任助教)

「複数個体のマルチモーダル行動データの計測による、関わり指標の評価」

15:50~16:00 休憩

【2. 社会性を制御する報酬・情動系】

<座長> 田中沙織 (大阪大学)

16:00~16:25 真鍋俊也 (東京大学) 「扁桃体におけるシナプス伝達の修飾機構」

16:25~16:50 小早川 高 (大阪バイオサイエンス研究所)

「恐怖反応を先天的と後天的に制御する神経メカニズム」

16:50~17:05 大竹文雄 (大阪大学)

「社会的行動と異時点間の意思決定：時間割引と肥満」

17:05~17:20 田中沙織 (大阪大学)

「社会的行動と異時点間の意思決定：健常者行動実験の報告」

17:20~17:35 狩野方伸 (東京大学) 「嗜癖・依存症と内因性カンナビノイド」

17:35~18:00 山田和男、吉川武男 (理化学研究所)

「統合失調症の分子シグナル群としての責任遺伝子」

【ポスター発表・討論】

~21:00

学際的研究による顔認知メカニズムの解明

主催者と連絡先：生理学研究所 柿木隆介

第6班（工学班）13:00-14:00

鈴木健嗣（筑波大学） 自己顔における動的表情の認知・認識とその応用

湯浅将英（東京電機大学） 発話志向態度の表現と理解 - 「話したい／聞きたい」の表情を探る

第4班（心理班）14:00-15:30

蒲池みゆき（工学院大学） 顔認知における時空間情報の解明

永井聖剛（産総研） 顔認知における自人種および正立顔バイアス

山口真美（中央大学） 顔認知の発達

第3班（臨床班）16:00-17:40

小山慎一（千葉大学） 顔表面の陰影が顔の知覚と印象形成に与える影響：臨床からの示唆

福島順子（北海道大学） 自閉性障害の表情認知における脳機能画像

稲垣真澄（国立精神神経センター） 自己顔・他者顔認知における脳波律動と脳血流変動

森悦郎（東北大学） レビー小体病におけるパレイドリア：顔の錯視の誘発

第2班（電気生理班）17:40-18:40

飛松省三（九州大学） 多次元視覚刺激による顔認知研究

開一夫（東京大学） フィードバック刺激としての顔表情と社会的参照の発達

7月27日(火)

ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解の ための神経機構の解明

主催者と連絡先：

津田一郎、北海道大学電子科学研究所

13：00-13：25 挨拶 津田一郎、北海道大学電子科学研究所

13：25-13：55 A01G1 動的脳の情報創成とカオスの遍歴の役割、津田一郎、北大

13：55-14：25 A01G2 2足歩行システムの環境適応性に対する数理的アプローチ、西浦廉政、北大

14：25-15：00 ディスカッション

15：25-15：55 B01G1 認知機能を制御する脳のリズム回路の多層構造、山口陽子、理研

15：55-16：25 B01G2 内因性コリン作動性入力のボトムアップ情報統合への影響、相原威、玉川大

16：25-16：55 B01G3 行動予定の脳機構、奥田次郎、京都産大

16：55-17：25 B01G4 脳波による動的な皮質ネットワーク形成：EEG と fMRI の同時計測による新たなアプローチ、水原啓暁、京大

17：25-18：00 ディスカッション

7月28日(水)午前

ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の
開発

会場：瑞雪 9:30-12:00

独創性の高いモデル動物の開発

会場：蓬萊 9:00-11:50

社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発

会場：玉葉 9:00-12:00

学際的研究による顔認知メカニズムの解明

会場：黎明 9:00-12:15

ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解の
ための神経機構の解明

会場：清流 9:00-12:00

ポスターセッション(前半)

会場：フロア 9:00-15:00

会場：瑞雪 9:00-12:00

Neuroinformatics : INCF 日本ノードとプラットフォームの紹介

主催者と連絡先：INCF 日本ノード

理化学研究所脳科学総合研究センター神経情報基盤センター

会場：フロア

7月28日(水)

ブレイン・マシン・インターフェース (BMI) の開発

(脳プロ課題 AB)

主催者と連絡先:

川人光男 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所長

9:30~12:00 セッション2 「発見志向の神経科学に向けて」

- 9:30-10:05 Brain-Behavior Timeline: 時間をそろえてデータを保存・共有しよう/
神谷之康(ATR 脳情報研究所)
- 10:05-10:40 統合データベースプロジェクト: ライフ・イノベーションによる知のめぐりのよいオープンな
生命科学を目指して/ 坊農秀雅(ライフサイエンス統合データベースセンター)
- 10:40-11:15 バイオロギングによる野生動物の驚異的能力の発見/
塩見こずえ(東京大学大気海洋研究所・佐藤克文研究室)
- 11:15-11:50 Pan-Brain Recording の可能性/ 藤井直敬(理化学研究所)
- 11:50-12:00 総合討論

夜: 合同懇親会

独創性の高いモデル動物の開発 (脳プロ課題 C)

主催者と連絡先：

伊佐 正 生理学研究所 発達生理学研究室 認知行動発達機構研究部門

発表 25 分，質疑応答 5 分

- 09:00-09:30 小林和人 (福島県立医科大学)
"高頻度逆行性輸送ベクターを用いた神経回路操作技術"
- 09:30-10:00 水上浩明、小澤敬也 (自治医科大学)
"AAV ベクターを用いた神経系への遺伝子導入"
- 10:00-10:10 休憩
- 10:10-10:40 尾上浩隆 (理化学研究所)
"PET を用いた病態モデル動物の生体分子イメージング研究"
- 10:40-11:10 尾藤晴彦 (東京大学)
"シナプス活動応答性エレメント SARE を介した活動依存的 Arc 遺伝子制御"
- 11:10-11:20 休憩
- 11:20-11:50 森琢磨 (生理学研究所)
"神経回路研究における遺伝子改変狂犬病ウイルスベクター"

社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発

(脳プロ課題 D)

【社会的行動の基盤となる脳機能の解析技術の現状】

<座長> 狩野方伸

- 9:00～9:30 崎村建司 (新潟大学)
「部位特異的遺伝子改変マウス」
- 9:30～10:00 饗場 篤 (東京大学)
「時期特異的遺伝子発現マウス」
- 10:00～10:30 渡辺雅彦 (北海道大学)
「シナプス機能分子の局在解析」

10:30～10:35 休憩

【3. 社会性障害の理解・予防・治療に向けた先導的研究】

<座長> 笠井清登 (東京大学)

- 10:35～11:00 木村 實 (玉川大学)
「霊長類モデルによる意志決定と行動発現を支える神経回路基盤と制御」
- 11:00～11:25 西川 徹 (東京医科歯科大学)
「社会的行動の成熟と関連する統合失調症の発症臨界期の分子細胞基盤」
- 11:25～11:40 八幡憲明、笠井清登 (東京大学)
「対人認知とその障害の客観的評価方法の開発
～社会性の脳神経基盤解明を目指して」
- 11:40～11:55 垣内千尋、笠井清登 (東京大学)
「社会行動異常への疾患研究を出発点としたアプローチ
～自閉症及び統合失調症の遺伝子解析、モデルマウス解析」
- 11:55～12:00 まとめ

7月28日(水)

学際的研究による顔認知メカニズムの解明

主催者と連絡先：生理学研究所 柿木隆介

7月28日午前9時開始（口演）

第5班（動物班）9:00-10:30

谷藤 学（理研） サル下側頭葉視覚連合野における機能構造の階層性と顔の表現
足立幾磨（京都大学） 顔知覚様式の比較発達学的研究
永福智志（富山大学） サル前部下側頭皮質における顔の連合記憶のニューロン表現

第1班（画像班）10:45-12:15

飯高哲也（名古屋大学） 側頭葉顔領域の活動に与える顔の向きの影響—3T fMRI 研究—
北田 亮（生理研） 触覚による顔認知の神経基盤 - 晴眼者と視覚障害者の比較 -
月浦 崇（東北大学） 顔の認知・記憶における人物の内面的な印象の影響を媒介する脳内機構の解明

7月28日(水)

ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解の ための神経機構の解明

主催者と連絡先：

津田一郎、北海道大学電子科学研究所

- 9：00-9：30 C01G1 乳幼児の注視点の解析 —絵本読み聞かせ時の場合—、中村克樹、京大
- 9：30-10：00 C01G2 役割分担の発生の脳過程の理解に向けてのアプローチ、大森隆司、玉川大
- 10：00-10：30 C01G3 生成的コミュニケーションと進化、橋本敬、北陸先端大
- 10：30-11：00 C01G4 間欠的制御モデル：連続的運動を分節して実行する脳の運動制御メカニズム、
阪口豊、電通大
- 11：00-11：20 ディスカッション
- 11：20-12：00 全体会議

7月28日(水)午後

包括脳オープニングセッション

会場:瑞雪 13:00-13:30

脳科学の将来と新分野創成センター

会場:瑞雪 13:30-15:30

「包括脳ネットワーク」総括支援およびリソース・技術

支援活動に関する説明会

会場：瑞雪 15:45-18:15

病態脳科学関連ワークショップ

『脳疾患研究の新しい潮流』

会場：蓬萊 13:30-17:30

さきがけ「脳情報の解読と制御」「脳神経回路の形成・

動作と制御」発表会

会場：清流 13:30-18:20

ポスターセッション

ポスターセッション(前半) フロア 瑞雪 9:00-15:00

ポスターセッション(後半準備) 玉葉 黎明 フロア 15:00-19:00

懇親会

会場：ロイトンホテル 時間：19:00 ～ 21:00

※ 懇親会は事前申込みされた方のみ参加可能です

脳科学の将来と新分野創成センター

主催者と連絡先：自然科学研究機構 新分野創成センター ブレインサイエンス研究分野
宮下 保司（東京大学大学院医学系研究科）

1. 13:30-13:55（質疑応答5分含む）

講演「将来の脳科学に向かっの研究費戦略は何か（仮題）」

（勝木 元也 新分野創成センター センター長）

2. 13:55-14:20（質疑応答5分含む）

講演「新分野創成センターに望む（仮題）」

（柳田 敏雄 新分野創成センター 運営委員）

3. 14:20-15:10

パネル・ディスカッション

演題 脳科学の将来と新分野創成センター

パネラー 勝木 元也（自然科学研究機構）

柳田 敏雄（大阪大学大学院生命機能研究科）

中西 重忠（大阪バイオサイエンス研究所）

丹治 順（東北大学包括的脳科学研究・教育センター）

岡田 泰伸（自然科学研究機構生理学研究所）

伊佐 正（自然科学研究機構生理学研究所）

磯村 宜和（玉川大学脳科学研究所）

澤本 和延（名古屋市立大学 大学院医学研究科再生医学分野）

宋 文杰（熊本大学・大学院医学薬学研究部・知覚生理学）

西 真弓（奈良県立医科大学第一解剖学教室）

司会 宮下 保司（東京大学大学院医学系研究科）

4. 15:10-15:30

会場フロアとの討論

「包括脳ネットワーク」総括支援およびリソース・技術支援活動に関する説明会

主催者と連絡先：高田昌彦（事務局担当；京都大学霊長類研究所）
岡部繁男（事務局担当；東京大学大学院医学系研究科）

1. 15:45-16:00 「包括脳ネットワークの概要説明と総括支援活動の内容紹介」
木村 實（玉川大学脳科学研究所）
2. 16:00-16:10 「リソース・技術支援活動の趣旨説明」
三品昌美（東京大学大学院医学系研究科）
3. 16:10-17:55 「リソース・技術支援活動の内容紹介（12 拠点）」

Part1 ヒトデータベース関連 16:10-16:30

- (1) 高齢者ブレインバンクの支援（村山繁雄・東京都老人研）
- (2) 画像データベース支援 疾患拠点（笠井清登・東京大）
- (3) 画像データベース支援 正常拠点（青木茂樹・順天堂大）

Part2 モデル動物関連 16:35-17:00

- (4) モデルマウス（崎村建司・新潟大）
- (5) モデルラット（小林和人・福島県医大）
- (6) ハイスループットモデル動物（上村 匡・京都大）
- (7) 系統的脳機能行動解析（宮川 剛・藤田保健衛生大）

Part3 蛋白・遺伝子発現関連 17:05-17:25

- (8) 神経細胞プロテオミクス（貝淵弘三・名古屋大）
- (9) 脳機能分子発現解析（渡辺雅彦・北海道大）

Part4 プロービング・ウィルス関係 17:30-17:55

- (10) 脳活動計測・操作のための集積型素子とソフトウェアの開発（虫明元・東北大）
- (11) 脳機能プロービング技術（尾藤晴彦・東京大）
- (12) ウイルスベクター（岡戸晴生・東京都神経研）

4. 17:55-18:15 「全体をとおした質疑応答」

病態脳科学関連ワークショップ

『脳疾患研究の新しい潮流』

主催者と連絡先：岡澤 均 東京医科歯科大学 神経病理学分野

- 13:30-13:40 『オープニング』 岡澤 均 (東京医科歯科大学)
- 13:40-14:15 『神経発達関連因子を標的とした統合失調症の分子病態解明』 貝淵弘三 (名古屋大学)
- 14:15-14:50 『ポリグルタミン病の包括的治療開発戦略』 貫名 信行 (理研)
- 14:50-15:25 『神経変性疾患の病態に基づく治療への展望』 祖父江 元 (名古屋大学)
- 15:25-15:45 休憩
- 15:45-16:20 『統合失調症の治療に向けた分子病態研究戦略』 西川 徹 (東京医科歯科大学)
- 16:20-16:55 『ミクログリアと脳疾患研究』 高坂 新一 (国立精神神経センター)
- 16:55-17:30 『脊髄小脳変性症の克服をめざして—SCA6 と SCA31 からのアプローチ』
水澤英洋 (東京医科歯科大学)

さきがけ「脳情報の解読と制御」「脳神経回路の形成・動作と制御」発表会

主催者と連絡先：

「脳情報の解読と制御」領域川人光男研究総括および

「脳神経回路の形成・動作と制御」領域村上富士夫研究総括

連絡先：板東 武彦 JST 戦略的創造研究推進事業「脳情報の解読と制御」技術参事

- 13:30-13:40 ご挨拶
JST さきがけ「脳情報の解読と制御」研究総括
川人 光男 ATR 脳情報総合研究所所長
JST さきがけ「脳神経回路の形成・動作と制御」研究総括
村上富士夫 大阪大学生命機能研究科教授
- 13:40-14:10 マウス視覚野における、睡眠・覚醒に依存した機能的結合の抑制系による制御
宮本 浩行 理化学研究所
- 14:10-14:40 脳回路の自発性に潜むルール 池谷 裕二 東京大学
- 14:40-15:10 二光子機能的カルシウムイメージング法で明らかとなったマウス大脳視覚野興奮性ニューロンとGABAニューロンの両眼反応性および眼優位可塑性の違い
惣谷 和広 理化学研究所
- 15:10-15:40 spatio-temporal control of neural activity in vivo
林 勇一郎 大阪バイオサイエンス研究所
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-16:20 自閉症患者から見つかった **neuroligin** 変異がシナプス機能に及ぼす影響 田淵 克彦
生理学研究所 脳神経回路領域"
- 16:20-16:50 情動的意思決定の分子イメージング 高橋 英彦 京都大学
- 16:50-17:20 背側縫線核ニューロンは報酬情報の何を表現しているのか？
中村 加枝 関西医科大学
- 17:20-17:50 BCI 閉回路を用いた人工皮質-脊髄運動ニューロン結合への適応
西村 幸男 生理学研究所
- 17:50-18:20 多様体学習による大自由度システムの縮約表現とその制御への応用
末谷 大道 鹿児島大学

7月29日(木)

プレナリーレクチャー

“Information processing and integration of the basal ganglia”

中西重忠

会場：瑞雪 9:00-10:00

「知覚と運動」

(脳と心のメカニズム 夏のワークショップ)

会場：瑞雪 10:10-15:40

「シナプスとスパインを作る遺伝子」

会場：蓬萊 10:10-15:30

脳神経科学のキャリアパスを考える会

会場：蓬萊 16:00-19:00

ポスターセッション(後半)

会場：玉葉 黎明 フロア 9:00 -21:00

「知覚と運動」 “Perception and Action”

(脳と心のメカニズム第11回夏のワークショップ)

主催者：北澤 茂, 藤田 一郎

10:10-11:00

Kei Ito (*Institute of Molecular and Cellular Biosciences, The University of Tokyo*)

Towards comprehensive "projectome" network analysis of the fly brain

11:00-11:50

Hitoshi Okamoto (*RIKEN Brain Science Institute*)

Habenula as the multimodal switching board for controlling behaviors

11:50-13:00 休憩

13:00-13:50

Marc Sommer (*Center for Cognitive Neuroscience Duke University*)

Neuronal circuits for stable perception during eye movements

13:50-14:40

Masaki Tanaka (*Department of Physiology, Hokkaido University School of Medicine*)

Cortico-subcortical mechanisms of temporal processing

14:40-14:50 休憩

14:50-15:40

Konrad Körding (*Northwestern University Departments Physiology & PM and R*)

Causal inference in motor control and perception

「シナプスとスパインを作る遺伝子」

遺伝子、分子の立場からの若手教育シンポジウム

ーこれから大きな発見をしてやろう、と考える若手へのメッセージー

主催者と連絡先：平井宏和 群馬大学大学院医学系研究科神経生理学分野

どんなシンポジウムか？

シナプスあるいはスパインを作るのに重要な遺伝子（それがなければシナプス/スパインの形成が大きく障害されるなど）を発見、あるいはその遺伝子に関して優れた研究を行い、世界的な注目を集める日本人研究者に講演を依頼しました。本シンポジウムは、普通の研究発表とは違って「**若手教育**」に重点を置いています。各発表では、**最初の発見をどう発展させるか、困難をどう乗り越えるか**、など研究の進め方についても議論するとともに、各発表者から若手研究者、大学院生へのメッセージも組み入れてもらう予定です。

【キーワード】プロトルーディン、Cbln1、ニューロリジン/ニューレキシン、シナプスタグ、PSD95

プログラム

10:10-10:15 シンポジウムの趣旨紹介 平井 宏和（群馬大学大学院医学系研究科）

時間	発表者	所属	演題	座長
10:15-11:05	白根 道子	九州大学 生体防御医学研究所	プロトルーディン結合脂質による樹状突起スパインの制御	木下 専 (名古屋大)
11:05-11:55	柚崎 通介	慶応義塾大学 医学部	シナプス研究におけるニッチー自分の棲む場所はどこ？	大塚 稔久 (山梨大)
12:00-13:00		休憩		
13:00-13:50	田淵 克彦	自然科学研究機構 生理学研究所	シナプス機能と自閉症：Neuroligin/Neurexin の役割	高森 茂雄 (同志社大)
13:50-14:40	岡田 大助	北里大学 医学部	なぜシナプスタグは私を惹きつけたのか	平井 宏和 (群馬大)
14:40-15:30	深田 正紀	自然科学研究機構 生理学研究所	AMPA 受容体の制御分子群	尾藤 晴彦 (東大)

発表 30分+質疑 20分

7月29日(木)

脳神経科学のキャリアパスを考える会

共催

脳科学若手の会、日本生理学会若手の会、関西システム神経科学若手の会

趣旨

キャリアパスの現状を分析し、その改善策を議論すること等が行われます。キャリアパスの現状と問題点を共有することによって、キャリアパスに対して世代を超えたコンセンサス、ひいては、脳神経科学者が一体となってキャリアパスを改善しようという機運を生み出すことを目指します。

日時・会場

7月29日 16:00-19:00 さっぽろ芸文館、蓬莱の間

プログラム

16:00-16:15 若手の会メンバーによる情報収集の結果発表

16:15-17:25 全体ディスカッション（ワールドカフェ形式）

17:25-17:35 休憩

17:35-18:50 トーク&パネルディスカッション

○シンポジスト2名による講演

三浦 有紀子（東京大学先端科学技術研究センター産学連携コーディネーター）

<http://www.pearl.mie-u.ac.jp/miuraposter.jpg>

兼松 泰男（阪大先端科学イノベーションセンター）

<http://www.clic-blog.jp/wp-content/uploads/2010/01/kanematu.jpg>

○若手の会パネリストとシンポジストによるパネルディスカッション

18:50-19:00 アンケート調査、意見の集約

(連絡先)

星 英司

194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

玉川大学脳科学研究所

電話：042-739-8510

e-mail: hoshie@lab.tamagawa.ac.jp

7月30日(金)

若手参加分野別将来構想討議会 (分子、回路)

会場：黎明 8:55-12:10

若手参加分野別将来構想討議会 (システム)

会場：蓬萊 9:00-12:00

若手参加分野別将来構想討議会 (病態)

会場：清流 9:00-12:00

ポスター特別賞発表 (事務局)

会場：フロア

若手参加分野別将来構想討議会（分子、回路）

主催者と連絡先：

三品昌美 東京大学大学院医学系研究科、狩野方伸 東京大学大学院医学系研究科

【企画・実務】

平井宏和 群馬大学大学院医学系研究科、榎 正幸 筑波大学大学院人間総合科学研究科

討議会テーマ：日本の神経科学の問題点

『今後、5年間で自分が行っている研究領域を飛躍的に発展させるには何が必要か？』

（構造的なことよりは、むしろサイエンスを中心とする）

- 今、どのようなことが問題で、それを解決するには何が必要なのか？
- サイエンスの点から、研究費が十分あればその問題が解決するのか？
- 異分野との技術的、人的融合が必要なのか？
- 欧米ではそれがクリアーされているのか？

日本のトップレベルの研究者が共有する問題をもちよって討論することで、これからの日本の神経科学の方向性を広い世代にわたって考える場を提供する。本討論会を通して、日本の神経科学の問題を浮かび上がらせることを目的とする。

- 発表者は神経回路から2名、分子脳から2名、若手1名
- パネルディスカッション方式（広い年代に渡って人選。若手は神経科学学会奨励賞受賞者など。）

発表 20分（15分）、討論 15分

時間	発表者	所属	パネリスト（順不同）	座長
8:55-9:00	趣旨説明等 狩野方伸（東京大）			
9:00-9:35	岡部 繁男	東京大学大学院 医学系研究科	1. 田中 啓治（理研） 2. 柚崎 通介（慶応大）	平井 （群馬 大）
9:35-10:10	村上 富士夫	大阪大学大学院 生命機能研究科	3. 中村 和弘（2005 奨励賞）（京大） 4. 山崎美和子（北海道大）	
10:10-10:40 （発表 15分）	村山 正宜	理化学研究所 BSI	5. 高森 茂雄（2005 奨励賞）（同志社大）	
10:40-10:50	休憩			
10:50-11:25	森 憲作	東京大学大学院 医学系研究科	1. 井ノ口 馨（2010 時實記念賞）（富山大） 2. 鳴島 円（東京女子医大） 3. 渡辺 雅彦（北海道大）	榎（筑 波大）
11:25-12:00	貝淵 弘三	名古屋大学大学院 医学系研究科	4. 白根 道子（平成 21 年度 日本学術振 興会賞）（九州大） 5. 磯村 宜和（2007 奨励賞）（玉川大）	
12:00-12:10	閉会のことば 三品昌美（東京大）			

7月30日(金)

若手参加分野別将来構想討議会 (システム)

世界的に高いレベルである日本のシステム神経科学に、若い研究者がもっと興味を持ち多く参加してくれることを目的とし、将来構想討議会を企画した。趣旨は以下の2点である。

- 1) システム神経科学の魅力を若手に伝え、多くの人に興味を持ってもらう
- 2) システム神経科学の果たす役割および将来像について参加者を交えて考える

オープニング 9:00 中村克樹 京都大学

Part I 9:05~9:45 特別講演

「システム神経科学の魅力」 丹治順 東北大学

ご自身の研究に触れながら、システム神経科学の魅力について話していただきます。

Part II 9:40~11:00

「新規ペプチドをめぐる冒険 (分子)」 桜井 武 金沢大学

「脳のアルゴリズムと表現を推定・検証する (計算論)」 鮫島和行 玉川大学

「脳による情報表現とスパイク列 (生理)」 田中真樹 北海道大学

「ニューロン活動に行動の起源を探る (認知)」 筒井健一郎 東北大学

「本物の神経配線図のための古典と挑戦 (解剖)」 藤山文乃 京都大学

「ニューロンが奏でるシンフォニー (生理)」 星 英司 玉川大学

「光によるニューロン活動の制御と計測 (生理)」 松崎 政紀 東京大学

「神経生理・実験心理・計算論トリオの時代 (心理)」 村上郁也 東京大学

最先端の研究者が、10分の持ち時間で専門分野の魅力とその役割や将来像について話します。

Part III 11:10~ 11:50 パネルディスカッション

「システム神経科学の役割と将来像について」 (司会: 中村克樹)

会場に参加している若手とパネリスト (講演者) がシステム神経科学の果たす役割と将来像について意見を交換します。

クロージング 11:50 木村 實 玉川大学

主催者と連絡先: 中村克樹 京都大学霊長類研究所高次脳機能分野 katsuki@pri.kyoto-u.ac.jp

若手参加分野別将来構想討議会 (病態)

主催者と連絡先：岡澤 均 東京医科歯科大学 神経病理学分野

日本のトップレベルの研究者が共有する脳疾患のさまざまな問題点をもちよって討論することで、これからの脳病態研究の方向性を広い世代にわたって考える場を提供する。

- 9:00-9:05 『オープニング』 岡澤 均 (東京医科歯科大学)
- 9:05-9:25 『化合物を基点としたケミカルバイオロジーによるアルツハイマー病治療薬開発』
富田泰輔 (東京大学・薬)
- 9:25-9:45 『脳疾患克服への新しい視点』 小野寺 理 (新潟大学・医)
- 9:45-10:05 『エピジェネティクスと神経変性疾患』 岩田 淳 (東京大学・医)
- 10:05-10:25 『細胞内蛋白質輸送と神経変性：ショウジョウバエモデルを用いた解析』
曽根雅紀 (東京医科歯科大学・難研)
- 10:25-10:45 『タンパク質線維化の分子制御メカニズム』 古川良明 (慶応・理工)
- 10:45-11:05 『Multimodal neuroimaging による精神疾患の病態研究の方向性』
村井俊哉 (京大・精神科)
- 11:05-11:45 『特別講演： γ セクレターゼ反応様式からみた髄液 Abeta の意味』
井原康夫 (同志社大学)
- 11:45-12:00 総合討論 『若手脳疾患研究の方向性と問題点』(司会 岡澤 均)
講演者および会場の参加者で意見交換をします。

ポスターセッション(前半)

7月27日 (火)

会場：フロア、瑞雪 時間：13:00-21:00

7月28日 (水)

会場：フロア 時間：9:00-15:00

瑞雪 時間：9:00-12:00

ポスターセッション(後半)

7月28日 (火)

会場：フロア、玉葉、黎明 時間：15:00-19:00

7月29日 (水)

会場：フロア、玉葉、黎明 時間：9:00-21:00